

第4回 新都市社会技術セミナー

アンケート調査結果

【完全版】

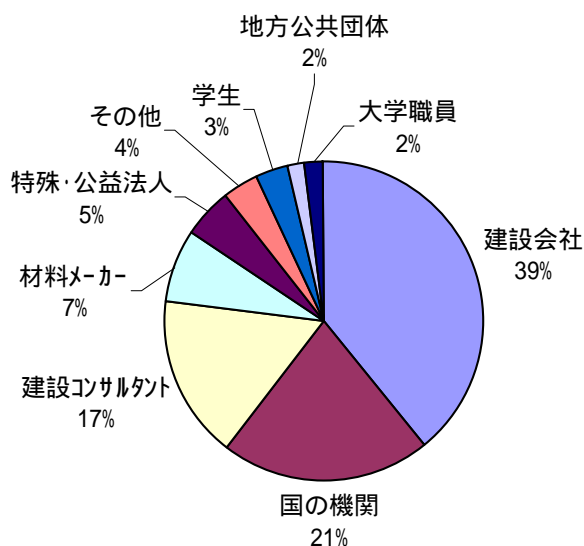
平成19年2月27日 開催
於：建設交流館

アンケート回収率 57.3%

聴講者総数	281名
アンケート回収総数	161名

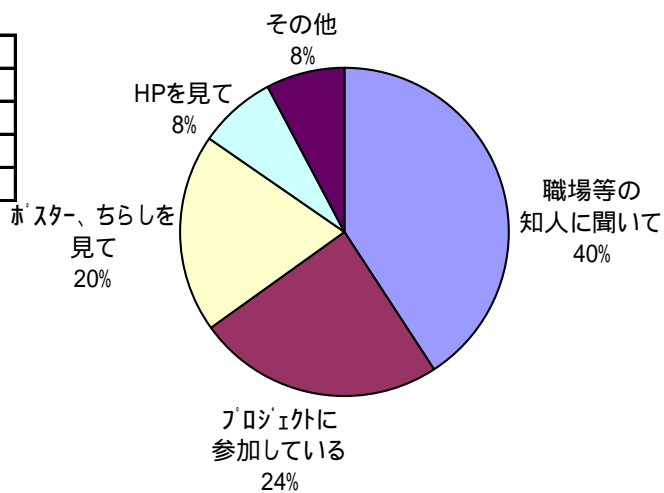
Q1. ご所属をお聞かせ下さい。

建設会社	63名
国の機関	34名
建設コンサルタント	27名
材料メーカー	12名
特殊・公益法人	8名
その他	6名
学生	5名
地方公共団体	3名
大学職員	3名



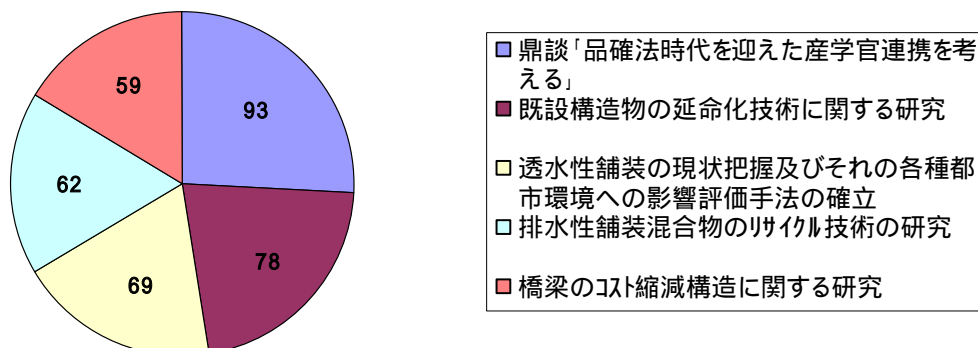
Q2. このセミナーを何でお知りになりましたか。

職場等の知人に聞いて	69名
プロジェクトに参加している	41名
ポスター、ちらしを見て	33名
ホームページを見て	13名
その他	13名



Q3-1 プログラムの中で、興味深く思われたのは、どのテーマですか？（複数回答可）

上位5位回答



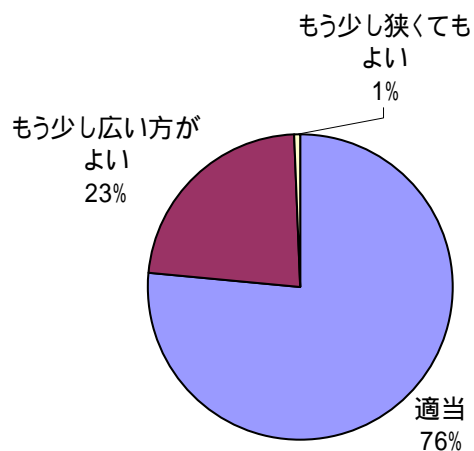
<理由>

- ・ 構造物の延命化、長寿命化が大切であるから
- ・ 今後老朽化する社会資本（構造物）の維持管理が重要と考えるから
- ・ 道路管理を携わっている上で重要なテーマと思ったから
- ・ 日頃、道路の定期巡回業務に活用していきたいと思う
- ・ 日常道路管理の補完を行っており、維持管理の今後のあり方に強い興味を持っているため
- ・ 現在行っている業務と関連が深いため
- ・ 自分の仕事に直接的に導入可能な技術
- ・ 今後の業務に活用可能なヒントとなる話題、トピックスの情報収集
- ・ 現在の社会環境、建設環境の中で課題となっている点である。又、将来のインフラ等、社会基盤の耐久性を考えたテーマであったから。
- ・ プロジェクト参加業種であるため
- ・ 既設構造物をいかに育んでいくかが今後の重要なテーマと考える
- ・ アセットマネジメントへの取組みが今後重要となると思われるので
- ・ これからは維持管理が重要であると考えられるため
- ・ まだ自分自身の知らない内容について知りたかったから
- ・ 時間的制約、興味のあるもの
- ・ 安全環境、維持管理についての技術で今後必要不可欠であるため
- ・ 舗装施工に参考としたい
- ・ 都市舗装の恒久化は今後の課題と考えるため
- ・ 品確法、モニタリング、景観設計、構造物の延命化についてはタイムリーなテーマである
- ・ 当社が参画できそうなテーマであるため
- ・ 道路業界の人間で研究テーマとして行っているため
- ・ 防災、As舗装にCDPを図っているため

Q.3-2 会場について

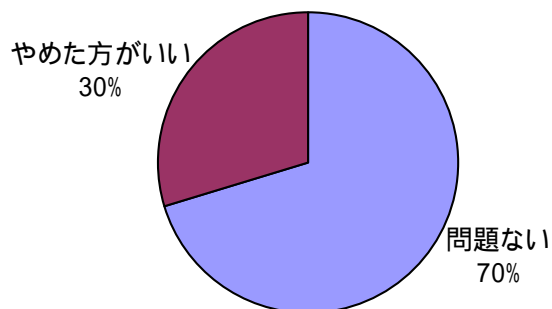
(広さについて)

適当	120 名
もう少し広い方がよい	36 名
もう少し狭くてもよい	1 名



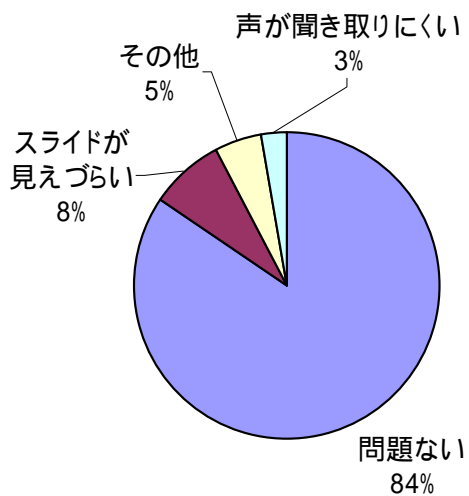
(会場が分かれることについて)

問題ない	95 名
聴講できないプロジェクトがあるので、やめた方がよい	40 名



(会場設備について)

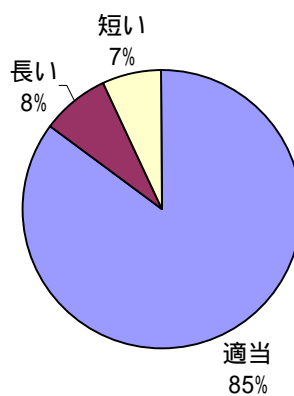
問題ない	119 名
スライドが見えづらい	11 名
その他	7 名
声が聞き取りにくい	4 名



Q3-3 各プロジェクトチームの発表について

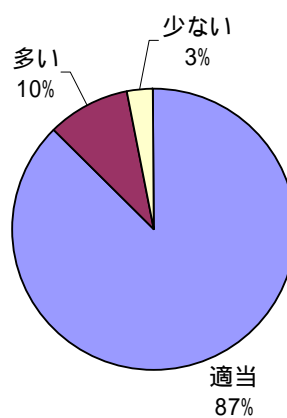
(発表時間について)

適当	122名
長い	11名
短い	10名



(配布テキストについて)

適当	119名
多い	13名
少ない	4名



Q3-4. 本セミナーにおいて良かった点、改善すべき点など、ご意見がありましたら、お聞かせ下さい

本セミナーにおいて良かった点

(会場・プログラムに関する意見)

受付の案内が丁寧(親切)でよかった
会場が広過ぎないから聴講しやすい

(各プロジェクトの内容に関する意見)

新しい研究開発の動向について情報が得られ、勉強になった
最近の技術に対する産学官の考え方、取り組み方の概要を把握することができた
維持管理に関する最新の動向を知ることが出来てよかった
産学官のメンバーがそれぞれの特徴を持って発表しており、今後のコラボレーションが期待できる
産学官がこのように集まって意見を交わすことは、従来は少なかったのだよと思う
大学の先生の研究内容が聞けるのは珍しいので、大変貴重な話が聞けたと思う
大学の先生たちが身近に感じられた
新しい研究成果の紹介があり、有意義なセミナーであった
活動そのものに意義があると思う
連携というキーワードを活かそうとする雰囲気
実物にこだわっている点
レベルの高い話が聞けてよかった
産学官でやるべき事が改めて聞けたように思う。産ももっと技術開発に費用をかける必要があるのではないかと考えさせられた。
発表テーマの中で、各担当グループの代表が発表した点が分かりやすくよかった
参加者が熱心であった
客席からの意見の吸い上げがあった点
鼎談という企画は非常によかった
鼎談でフロアーから積極的な意見が出ていた
様々なテーマに出合えたこと
パワーポイントで分かりやすい
説明が理解しやすく、丁寧であった
実例を含んだ内容
実験・試験施工を行い、確認している点
産学官共同の研究として異分野(土木技術から見て)を含めて、その成果報告に非常に参考になった

新しいテーマへの取組み状況がよく分かった。ハード面からソフト面に重点が移っているが、センサー利用など他分野の情報をいかにうまく使うかも検討する必要があることが認識された。

興味あるテーマでとてもよかった

土木以外の異分野との連携の大切さを改めて知ることができた

透水性舗装の今後の方向性、排水性舗装のリサイクルの現状が分かった

現実的な話題をとりあげている

分担発表は皆さんが個別に又チームで努力されていることの発表としてやりがいを感じておられると見ることができた

ＬＣＣやリサイクルを考慮した取組みを知ることができた

スライドも見やすく説明も聞取りやすく、よく理解できた

本セミナーにおいて改善すべき点

(会場・プログラムに関する意見)

部屋が暗すぎる

聴きたいテーマが他にもあり、会場が分かれてしまうと聴けなくなるのが残念

会場を分割する場合、スケジュールには移動時間(5分程度)を見込んでおいた方がよいと思う

発表する内容と発表時間があっていないように感じる

2つの部屋の発表時間を合わせてほしい

時間厳守、時間配分(各プログラムで1.5時間くらいほしい)

発表時間の1時間は妥当の設定と思ったが、1テーマ数人での発表の場合は別途時間配分を考えてはどうか

新規プロジェクトの発表時間が短かった(時間が足りていない)

昼食時間を気にしないで発表してほしい

17時には終わるようにしてほしい

各発表に対する質問時間を設定すべき

7階にも「8階に受付がある」ということが分かる案内板があるとよいと思う

時期が悪い。2~3月は期末のため、十分に時間が取れない

プロジェクトの数が増えてきており、1日のセミナーでは発表が無理になってきているように感じる

発表項目が多い場合、2回に分けて開催し、すべてを聴講できるようにしてほしい

会場がもう少し広い方がよい

このセミナーがあることを知らない人が多いと思うので、もっとPRすればよいと思う

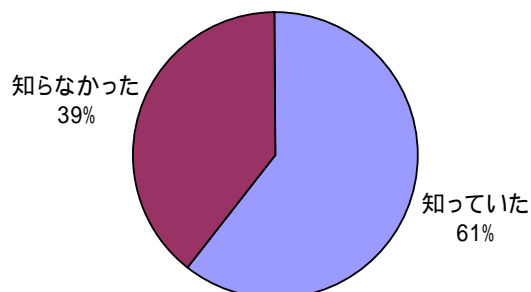
パワーポイントの起動トラブル、マイクトラブル等
ホームページへの資料のアップロードがもっと早い方が有難い
寄稿集のテキストは印刷物として配布しなければコスト縮減が可能となるので、各組織のホームページ等から聴講者がダウンロードして持参する方法がよいと思う
資料に目次、頁数が明記されていない
テキストのCD化
全てのパワーポイントを配布資料として配ったほうがよい
発表内容が配布資料と異なる発表があり、参考資料の配布があるとよいと思う
名刺交換のできる懇親会

(各プロジェクトの内容に関する意見)

技術紹介の羅列があった
「既設構造物の延命化技術に関する研究」についてはボリュームが大きいので、もっと時間をかけて説明してほしい。成果が大きいのに勿体無い。
最後の講演は講評ではなく講演と思う
講評者のプロフィールを読み上げる必要はないと思う(リーフレットに書いてあるので)
パワーポイントの文字が全体に小さいものが多い
発表者が3人の場合は、産学官のそれぞれの立場から発表されたほうがよい
発表の最後がしりつぼみになってしまっている
説明者(民)の説明が長すぎる
若い人の参加が少ない
レーザーポインタ等を使用したほうがよい
項目を少なめにして、もう少し詳しくしてほしい
もう少し具体的な話になればと思う
もっと的を絞って、素人にも分かりやすく
鼎談の産はもっと「夢」や「今取り組んでいること」の話をしてほしいと思う
最初の「鼎談」は3者議論になっていなかったように思う

Q4. 当研究会が発足して約4年が経過しましたが、このような取組みについてはご存知でしたか？

知っていた	92名
知らなかった	60名



Q5. 今後、産学官連携で取組むことが望ましいと思われるテーマがあればお書き下さい。
(日頃の業務の中で苦慮されていることなどでも結構です)

(舗装に関するテーマ)

低コスト且つ簡易的な補修(舗装)、リサイクル舗装

凍結抑制舗装

総合的な道路騒音低減技術

排水性舗装のリサイクルにおいて、一般の再生材(ストレートアスファルト系)の利用技術について大きな視点で見た舗装のリサイクル、循環モデルの研究(無駄のない利用、効率的な循環モデル)

常温工法の開発と普及について

排水性舗装の目詰まり防止、除去等の技術の向上

低騒音化の延命化の向上

(橋梁に関するテーマ)

橋梁等構造物の健全度評価(寿命)ができるシステム

鋼構造物の防食技術

橋梁のLCCの定量的な評価(PC、メタルの両方)

(環境やリサイクルに関するテーマ)

環境に配慮したテーマ(騒音低下など)

砂防、公園、緑地、地球温暖化、環境について

建設リサイクル技術

(維持管理や防災、アセットマネジメントに関するテーマ)

アセットマネジメントの考え方について

維持管理費が縮減される中で、補修順位(優先順位)をつけて補修していく必要がある

品質確認の簡易で精度のいい手法の検討(非破壊検査等)

歴史的な土木遺産(資産)の活用を産学官で考えていく

土木資産が経済にどのように貢献してきたかを数値化し、今後の取組みに活かす

防災技術

リスクコミュニケーション(合意形式の方法)

構造物メンテナンス

社会資本の合理的な維持管理手法に関するテーマ

地震(地震による津波を含む)、洪水等の防災のあり方に関する研究

道路斜面モニタリング

道路パトロール等のデータベース化と今後の維持管理の考え方

法面の崩壊予測、モニタリング

構造物(トンネル・法面・橋(基礎を含む))等の非破壊検査手法の精度向上

アセットマネジメント手法の検証とシステムの精度向上を行い、早期実用化を

土砂崩壊の事前感知技術の向上と通行止め体制の確立(ICチップの活用)

(まちづくりに関するテーマ)

市民参加型の事業運営について、産学官各々の立場で何ができるか

まちづくりプロジェクト

PI手法による事業化の研究

(制度や取り組みに関するテーマ)

技術開発においての学の積極的な参加

入札制度

品確法への取り組み

品確法と入札制度改革について

NETISの活用例

公共物の安全使用(利用)に対して、どのような努力(予算)が払われているのかもっと広報すべき

低入札受注が増えており、技術を開発しても現場が工程に追われ、適用できない現場が増えている。適正価格での受注・発注については産学官連携で取り組むテーマのような気がする。

NPO活動の立上、支援(特に防災、治山等)

具体的にプロジェクトを進める際には、資本が必要だと思われる。そのためには官から産、学への委託契約等の手続きについて明確化、ルール化が課題と思われるので、早急に検討をしてほしい。

産の特許に近いアイデア物を学・官が支援されている。又はしていた。事例により、三者の連携を皆さんにPRするテーマとしてほしい。(特許申請制度の改善方法(法律、手続き共)も含めて)

産学官での連携において受け持つ範囲の区分を明確とすること

研究、開発も重要であるが、実道での試験施工等におけるリスクの配分についても検討が必要である。リスクに関して産のみが受けるので進みにくいのでは。

官はユーザーを代表して、各分野に分けてどのような技術を必要としているのか情報発信してもらいたい。NETISを取得する場合、申請から結果が出るまでに時間がかかりすぎる。

産学官であまりにも話がかけ離れていて意見がかみ合っていない。(方向性が見えない)

なかなか現場へのフィードバックが見えない

マスコミに対してももっとアピールして欲しい

(例えば、「いいものをつくるには金がかかる」「材料ミニマムより工数(手間)ミニマム」など)

(その他)

LEDを利用した道路街灯(コスト縮減が可能)

高速道路の料金施策の問題

SA、PA等の道路本体ではない部分の道路施設機能向上

施工管理の高度化

日常点検(モニター)の機械化、自動化等の人力からの脱却方法について

ヒューマンエラーへの対応策を学問的に検討

建設業界と環境技術が結びつくテーマであれば種類は問わない

豊かさを現出する技術

土木関連以外の人々の興味を引くテーマがあればと思う

建設業の社会、学生へのPR、理解活動

魅力ある建設業にするためにどうしたらよいか

リニューアル技術の業務環境改善

コスト縮減の技術は当然として、コストをかければこんな夢のある技術が実現可能であるなどのシミュレーションができればと思う

多方面におけるコスト縮減、活動の紹介等

追加のテーマはないが、現在のテーマの研究精度を高めて欲しい

公共工事積算において施工条件等をもっと明確にしてほしい

(例えば、道路使用許可条件等は受注してからでないといけない)

「新技術、新工法=安い」という考え方が強すぎ、従来工法より高いと官に試験施工さえもさせてもらえない。新しい技術のスタート時は付加価値がついて当たり前では?

鼎談の中の質問で国交省の道路管理の方々からの現実的な話が出され、興味深く聴いた。工事出件という形でなくても、技術提案面において産側が協力できることがあるのではないかと感じた。

Q6. その他、研究会へのご意見等がございましたら、お書き下さい。

(研究会の体制や取り組み、PRに関する意見)

現況の問題点を吸い上げる委員会が独立して存在してもいいのではないかと(現場により近い形で)

今回発表のパワーポイントを研究会HPで公開してほしい

発足当時に比べるとイメージがはっきりしてきた。何を行うのか分かってきたような気がする

今後も継続されることを望む

建設コンサルタントの参加人数が少ない

セミナーの案内(告知)ホームページは、早期に立ち上げれば多数の参加者が参加することが予想される。(近畿地方整備局内でも案内が行き届いていない)

研究会のPR不足

産学官以外のマスコミ、一般社会への発進方法について研究してほしい

(社会資本の重要性を訴える方法等)

知的財産権に関するルール(書いたもの)が必要ではないか。今後、このような取組み(産学官共同研究)を継続して行うべきと考える。非常によい取組みである。

建設技術に関する産学官の連携と合わせて、優秀な人材を確保していくための産学官の連携についてもセミナー等に紹介していただきたい(少子高齢化が進む中、優秀な人材を継続的に確保することは業界としても重要ではないだろうか)

継続調査、新材料、新施工方法等、今後の技術力UP、研究に産学官協力のもと発表会を設けていただきたい

(プロジェクトの内容に関する意見)

現在のテーマは非常にニーズの高いものばかりだと思う

異分野からの参加(電子計測器メーカー)であるが、土木業界の技術向上に期待したい

ハードの技術は多いが、ソフト面が少ないように思う

研究成果のネット公表(詳細まで)

異分野や新技術を取り入れる際、安全面・現場サイドでの対応の仕方等、きめ細やか部分まで詰めていくことが重要だと感じた

(その他)

垂井高架橋の経緯について聞かせてほしい

(原因、補修工法、10年モニタリング内容等について)

NETIS登録に費やす手間はそう簡単ではないのが現状である

カメラマンが写真撮影しすぎている(フラッシュがまぶしい)